

思いやりとは何だろう

市原市立東海中学校 二年 酒巻 優香

人が人にやさしくするとは、どういうことだろう。「思いやり」とは何だろう。「優香ちゃんて、優しいね。」とよく友達にそう言われる。そう言われて私は嬉しい気持ちになる。だから、困っている人や落ち込んでいる人がいたら、自分から

「どうしたの？大丈夫？」

と声をかけ、やさしくするようにしてきた。

ある朝、私はいつもより家を出る時間が遅くなり、登校完了時刻ぎりぎりに学校に到着した。自分の机に荷物を置き、急いでトイレから戻ってくると、一人の友人が私のカバンを開け、中身を取り出していたのだ。「勝手に人のカバンを開けるなんて、何してるんだろう」普段は仲の良い友達だけど、嫌な気持ちになった。すると、そんな私の気持ちを察したのか、

「このままだと遅刻になっちゃうといけないから、荷物を出しておいてあげたんだよ。」

と言った。友達は気を利かせてくれたようだったが、私にはその行動が、やさしさだとは思えなかった。そして同時に、以前先生がしてくださった話を思い出した。

「自分より小さい子が、大きな荷物を重そうに持っていたらどうする？」先生はそう問いかけた。私は、「大変そうだから荷物を持ってあげる」と答えた。すると、先生はこう言った。「じゃあ、その子が自分で持ちたいと言ったらどう思う？」その時の私は、深く考えず、「特に何も感じない」と答えた。しかし、今回の友達の行動で、あの問いかけの意味がわかった気がした。

私は今まで、誰かに何かをしてあげること、自分が相手にとって良いと思うことをしてあげることが、思いやりややさしさだと思っていた。でも、そうじゃない。それは違った。確かに友達は私が遅刻しないように気を利かせて、勉強道具を

出してくれた。だけど、それは私が望んだことではなかった。私の気持ちは置き去りだったのだ。

このことをきっかけに、私は本当の思いやりとは、行動する前に相手が何を望んでいるのか、相手の立場になって考えること。相手に聞くこと。自分の気持ちを押しつけるのではなく、その人の気持ちに寄り添うことが大切なのではないか、そう考えるようになった。

私も落ち込んでいる友達に、「大丈夫、大丈夫」とか、「次また頑張ればいいよ」とかたくさん言葉をかけていたけど、もしかしたら、そんな励ましの言葉よりも、自分の話を聞いてほしかったかもしれない。そっとしておいてほしかったかもしれない。感じ方は一人ひとり違うのだから、思いやりは、一方通行ではいけないのだと気づいた。

東海中は全校生徒わずか五十九人の小さな学校だ。クラスみんなの仲がいいし、先輩達との学年の壁も低い。でも、きっとささいな心のすれ違いはあると思う。だから、「本当の思いやり」をみんなに伝え、相手の気持ちや立場を尊重して行動できるようにしていきたい。大好きな東海中学校が、今以上に思いやりであふれるように。